

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 21 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2014～2016

課題番号：26370371

研究課題名（和文）「フランス語圏アジア系女性文学におけるジェンダーとエスニシティに関する比較研究」

研究課題名（英文）A Comparative Research on Gender and Ethnicity in Asian Women's Writings in Francophonie

研究代表者

山出 裕子（Yamade, Yuko）

明治大学・政治経済学部・兼任講師

研究者番号：10452038

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、フランス語圏におけるアジア系女性文学に見られるジェンダーとエスニシティに関する比較研究を行った。特に、日系、ベトナム系、中国系女性の文学に関して、欧州におけるフランス語圏文学の中心であるフランスの女性文学と北米のフランス語圏文学の中心であるケベックの女性文学に関しての比較研究を行った。研究成果については、国内学会（フランス語フランス文学会）や国際学会（フランコフォニー研究学会、オーストラリアアジア研究学会など）において研究発表を行い、また、欧州と北米のフランス語圏において、在外研究を行った。また、最終年度には、国際シンポジウムを開催した。

研究成果の概要（英文）：This research focused on a comparative analysis on gender and ethnicity in Asian women's writings in Francophonie, especially in Europe and in North America. Among them, we especially focused on Asian, such as Japanese, Vietnamese and Chinese, women's writings in France and Quebec.

研究分野：移動女性文学

キーワード：移動文学 女性文学 ジェンダー研究 比較文学 日系研究 アジア系文学 フランス語圏 移民研究

1. 研究開始当初の背景

本研究、「フランス語圏アジア系女性文学におけるジェンダーとエスニシティに関する比較研究」は、近年のフランス語圏文学研究の発展を受けて、そのなかでもまだあまり研究の進んでいない、アジア系の女性文学の研究を進めていくための手がかりとすべく、研究を開始した。

2. 研究の目的

研究の目的は大きく分けて3つが挙げられる。1つは、まだあまり研究の進んでいない当該分野の研究資料を充実させるための資料蒐集を国外において行うこと、2つ目は、体系的に研究のなされていないフランス語圏文学研究について、テーマを絞り研究を行うことで、この研究分野に見られる特徴を明らかにすること。さらに、この資料蒐集とその分析で得られた当該研究分野の特徴について、学会発表やシンポジウム開催を通して、発信していくこと、である。

3. 研究の方法

研究方法としては、3つのアプローチでこの研究は行われた。まず第1のアプローチとして、北米のフランス語圏であるケベック州におけるアジア系女性文学の状況について調査を行った。具体的には、ケベック州のモントリオール市において、在外研究を行い、アジア系女性文学に関する資料蒐集を行い、ケベックのアジア系女性文学の専門家と、近年の当該研究についての意見交換を行った。次に、第2のアプローチとして、欧州のフランス語圏に中心であるフラ

ンスにおけるアジア系女性文学の状況について調査を行った。具体的には、フランスのパリ市において在外研究を行い、アジア系女性文学に関する資料蒐集を行い、専門家にインタビューするなどして、フランスにおけるアジア系女性文学の現況について調査を行った。さらに、第3のアプローチとして、国内において、フランス語圏のアジア系女性文学に関する国際シンポジウムを開催し、当該研究テーマに関する特徴を国内外に発信し、この研究分野の発展の一助になることを図った。

4. 研究成果

まず、カナダのモントリオール市において在外研究を行った。ここでは、モントリオール市内にあるモントリオール大学図書館、マギル大学図書館、ケベック大学図書館、コンコルディア大学図書館、ケベック州立図書館において、資料の蒐集と蒐集資料の分析を行った。特に、ケベックのアジア系女性文学作家として有名な、日系のアキ・シマザキ、中国系のイン・チェン、ベトナム系のキム・チュイの3名の作品についての資料蒐集を行った。また、モントリオール市内にある、アジア人街に出向き、北米のフランス語圏におけるアジア系文化の特徴についての視察を行った。ここでは、アジア人街といっても、特に中国系とベトナム系の人々が多く、日系や韓国系はアジア人街とは離れたところで独自の文化を形成している様子が見られた。文学においては、「アジア系」と一括りにされがちではあっても、ケベックのアジア系としてのアイデンティティーが多様であることがその様子

から見て取れた。また、文学にもそうした多様性は明らかであり、中国系とベトナム系の作家の作品に描かれるケベック文化と日系の作品に描かれるその特徴が異なっていることも、このようなところに起因しているのではないかと考えた。

モントリオールでの在外研究中に、ケベックにおけるアジア系女性文学のパイオニア的存在であるコンコルディア大学フランス文学科教授のルーシー・ルカン教授にお目にかかることができた。同教授からは、ケベックのアジア系女性文学はさらに多様化しており、近年は、カナダの英系作家でマレーシア系の作家(マドレーヌ・チエン)がケベックに移住し作品を発表するようになっていたとお話があった。チエンの作品では、近年、ケベックをテーマとしている作品があることから、チエンをケベックのアジア系作家として扱っているとお話があり、興味を持った。今回の研究では比較研究をテーマとしていることから、英系でかつマレーシア系という、これまでのケベック文学やフランス語圏文学とは異なる出身地と言語で作品を描く作家が現れていることは、比較研究という視点から、特に興味深く思い、同作家の作品についても研究対象もすべく、資料蒐集と分析をあわせて行った。

次に、フランスのパリ市において、在外研究を行った。パリ市では、日本文化会館とフランス国立図書館において資料蒐集を行った。日本文化会館では、フランスにおけるアジア系文化の受容という点から資料蒐集を行った。また、フランス日本学会より発行されている機関紙などから、日本国

内や他のフランス語圏とは異なる視点でアジア系研究がなされていることなどが明らかとなった。また、パリ 13 区にあるアジア人街などを視察し、モントリオール市のそれとの比較を行った。フランス語圏にあるアジア人街としては、パリ市のほうが都市としての規模が大きいためか、パリ市のもののほうがよりアジア人街としての役割を果たしているように感じられた。というのは、パリ市のアジア人街には、様々なエスニシティの人々が集い、中国系やベトナム系、韓国系などがより複雑になったエスニック街を形成しているように見受けられた。これはまた、アジア人間の愛電停ティの孤立化を生んでいるようにも感じられた。それは文学にも現われており、日系の関口涼子、中国系のサン・シャ、ベトナム系のリンダ・レは、それぞれの民族としての意識を高く持ち、移民としてではなく、フランスに住む日系作家、または中国系作家としての意識を高く持っていることが作品に表れているのはこうしたフランスにおける移民たちの存在の仕方が、ケベックのそれとは異なるためではないかと考えた。

パリ滞在中には、パリ在住の日系作家である関口涼子氏にインタビューを行い、フランスで移民として作品を書くことに対する意識や、フランスにおけるアジアや移民の女性作家の作品の特徴について意見交換を行うことができた。

さらに最終年度には、在東京カナダ大使館において、「フランス語圏で書く女性」と題する国際シンポジウムを開催した。ここには、ケベックのベトナム系女性作家であるキム・チュイ氏と、フランスの日系作家

である関口涼子氏を招聘し、同テーマに関する対談を行っていただいた。

会場には数十名の観客があった。フランス語でアジア系女性が作品を書くことについての、フランスとケベックの社会的、文学的違いが、浮き彫りになる、大変興味深い対談、ならびにシンポジウムであった。また対談の後で、NHKのフランス語放送局からの両氏へのインタビューがあり、今回の研究テーマに関して、国内外にフランス語系ラジオ局を通して広く発信することができた。このような、国際シンポジウムを開催したことは、大変有意義であったことを認識した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

山出裕子「英系ケベックの女性文学にみられる文化混濁性と間文化性—マヴィス・ギャラントとマドレーヌ・チエン—」『カナダ文学研究』vol. 22、査読あり (2015), pp.65-76.

〔学会発表〕(計4件)

(1) 山出裕子「ケベックの女性文学の歴史と変容 - アジア系女性作家の作品を例に」『日本フランス語フランス文学会 2015年度秋季大会』京都大学、2015年10月31日。

(2) 山出裕子「移民のエクリチュール」から「世界文学」へ—北米のフランス語圏ケベックの文学を例に」『第三回世界文学・語圏横断ネットワーク研究集会』立命館大学衣笠キャンパス、2015年9月21日。

(3) Yuko Yamade, « L'influence de l'interculturalisme dans la littérature québécoise contemporaine : la construction de la nouvelle identité dans l'œuvre de Kim Thuy », *Conseil international d'Études Francophones* (Université Saint-Boniface, Manitoba, Canada), le 8 juin, 2015.

(4) Yuko Yamade, "Exploring Cultural Hybrid Space: An Analysis on Japanese-Australian Filmmaker, Mayu Kanamori's *The Heart of the Journey*." *Annual Conference of Australian Asian Studies*, Australian National University (Canberra, Australia), July 07, 2016.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山出裕子 (Yamade, Yuko)

明治大学政治経済学部 兼任講師

研修者番号 10452038

(2) 研究協力者

関口涼子 (Ryoko Sekiguchi)

在仏フランス語作家

ルーシー・ルカン (Lucie Lequin)

コンコルディア大学 (カナダ) フランス文学科教授

キム・チュイ (Kim Thuy)

ベトナム系カナダ人フランス語作家